

## 地域の経済動向（令和4年4～6月期）

### 《道南（渡島・檜山）地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（4～6月期）

##### 【建設業】

- ・コロナ禍が続く中、原油高の負担重い。（土木工事業）
- ・石油製品、材料費の高騰が続き、経費の節約等にも限界あり。（一般土木建築工事業）
- ・現在の受注状況は例年と変わりはないが、今後増える見込。また、ロシア情勢やロックダウンの影響で、今後、設備関係の納期がかなり遅れることが懸念。ウッドショックは、ウクライナ以前からある問題で、木材価格が2～3倍になるなど、かなり大きい。また、大雪の影響で新築中の住宅が雪に埋まるなど、除雪経費の増加があった。（建設業）
- ・従業員の年齢構成がいびつで、中間層が薄くなっており、今後の経営上の課題。（建設業）
- ・原材料高・材料価格の上昇、輸送費上昇などによるコストアップを懸念。（建設業・製造業）

##### 【製造業】

- ・原材料、容器・包装資材、重油、輸送費等々の大幅な値上げに苦慮。価格転嫁できず、自社内で経費節減や生産性向上策を実施しているが、対策にも限界。（清涼飲料製造業）
- ・スルメ加工業者は、1、2月冬期休業となり、3月中旬より手持ち冷凍在庫にて小規模稼働。売上高は冬期休業中も在庫製品の販売により平年並みで推移。（水産加工業）

##### 【卸売・小売業】

- ・商品不足対策として、取引先を拡大し、販路の多様化に対応。仕入量と商品の多品種化のバランスが崩れている。（建築材料卸売業）
- ・本州の飲食店が再開し始め、注文が増加傾向にある。（水産物卸売業）
- ・発砲スチロールなどの梱包資材や送料の値上がりにより、価格の見直しを迫られている。（メーカー）

##### 【運輸業】

- ・コロナ禍の影響で売上げが大幅減少する中、燃料等の高騰やドライバー不足でとても苦しい。（一般貨物自動車運送業）
- ・観光客の増加に伴い、タクシーやフェリー（自家用車）の予約が好調。フェリーは対前年200%増。（運送業）

##### 【サービス業】

- ・直近での悩みは人手不足。（旅館、ホテル）
- ・後継者不在、高齢化が課題。（自動車整備業）
- ・桜の開花が早まり、連休と重なったことから、ホテルの予約が2年ぶりに満室となった。（観光業）
- ・道の駅の人気が高い。特に七飯町の道の駅「なないろ・ななえ」は、道南道の駅フェア開催により、連休中大盛況。（観光業）
- ・半導体不足により、オートバイや除雪機は、1年待ちの商品もあった。また東アジアでのロックダウンの影響により、新車の納車はかなり遅れる見込。ロシア情勢の影響は、ロシア向け中古車の輸出が大きく減少。（自動車販売業）
- ・半導体不足やコロナ禍による工場操業の停止などの生産体制の回復遅れが続いており、新車販売台数は依然として低い水準にある。（自動車販売業）
- ・地域限定宿泊費助成事業の効果から観光客が増加しているものの、新規感染者が増加傾向にあることが懸念。（観光業）
- ・ボイラー燃料代が約4割上昇し、負担が大きい。（サービス業（ホテル））
- ・「どうみん割」の延長や、函館競馬場の競馬が開催されたことにより宿泊客が増えた。ビジネス目的の宿泊も徐々に増えつつある。（ホテル）
- ・出張で来る人も増えてきたようで、出張客の利用も多い。（サービス業（飲食））

##### 【関係機関・団体】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあり、持ち直しの動きが一服している。項目別では、公共投資は、一巡感がみられている。設備投資は、持ち直している。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、持ち直しの動きが一服している。観光は、持ち直しの動きが一服しており、厳しい状

況にある。生産は横ばい圏内で推移している。(日銀函館支店/令和4年4月1日公表)

・新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、一巡感がみられている。設備投資は、持ち直している。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、地域限定の宿泊費助成事業の効果等により、持ち直しつつある。生産は、持ち直しつつある。雇用環境は、弱さが目立っている。(日銀函館支店/令和4年6月7日公表)

・新型コロナウイルス感染症の影響から、引き続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられている。最終需要面をみると、公共投資は、一巡感がみられている。設備投資は、持ち直しの動きが緩やかになっている。住宅投資は、低水準で推移している。個人消費は、緩やかな持ち直しの動きがみられている。観光は、厳しい状況にあるが、全体としては持ち直しつつある。生産は、持ち直しつつある。雇用環境は、弱さが目立っている。(日銀函館支店/令和4年7月1日公表)

2 道内金融機関から見た地域景況感 (4~6) 月期

① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

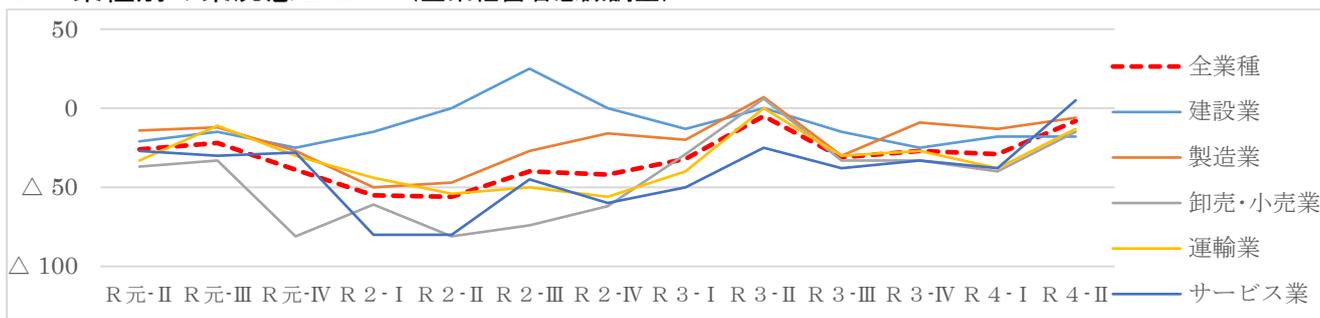
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
渡島信用金庫				まん延防止法等重点措置の解除により、一定程度景況感の回復期待もある中、観光・飲食業等に対しては依然影響がある状況。地場水産加工業において生産高が堅調に推移する動きもあるが、原油高が生産者等への懸念材料となっていることから「やや低調」と判断。		ロシア・ウクライナ問題や円安情勢、コロナ禍による先行き不透明感の中、地域への影響は未だ終息の目途が立たず厳しい状況が続く見通し。前回判断同様、景気上昇には期間が要されるものと考え、今期同様「変わらない」と判断。
道南うみ街信用金庫				今期の業況 DI は、不動産業でプラス、卸売業で均衡を示し、その他の業種ではマイナスとなったが、総合では前期比 1.7 ポイントの改善となった。売上額 DI についても、全業種でマイナス幅が圧縮され、前期比 33.1 ポイントの改善となった。また、受注残高(建設業・製造業)・施工高(建設業)の動きでも、受注高 13.4、施工高 9.5 ポイントの改善となったことから、前期の「低調」から「やや低調」と判断した。		次期の見通しについて、売上額 DI は今期△3.7 に対し 1.8 ポイント減少予想となったが、業況・受注残高・施工高・収益の動きは共に DI が改善の見通しを示している。また、コロナ禍での各種規制も緩和され、人流の活発化が期待されるが、物価高による消費動向を注視し、今期の「やや低調」と「変わらない」と判断した。

【景況感の推移】

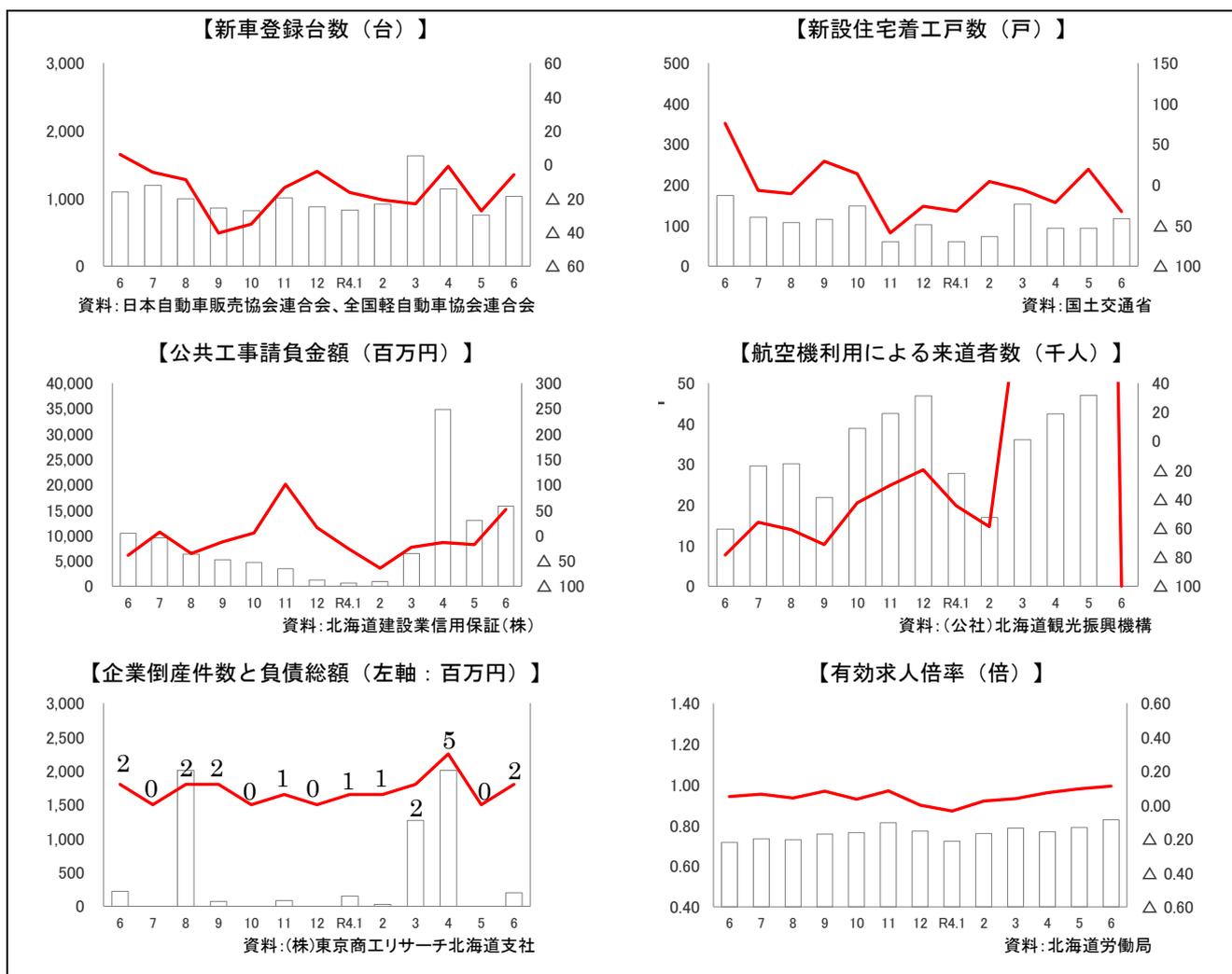
	R2-Ⅲ	R2-Ⅳ	R3-Ⅰ	R3-Ⅱ	R3-Ⅲ	R3-Ⅳ	R4-Ⅰ	R4-Ⅱ
渡島信用金庫								
道南うみ街信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II
全業種	△ 26	△ 22	△ 39	△ 55	△ 56	△ 40	△ 42	△ 32	△ 5	△ 31	△ 27	△ 29	△ 8
建設業	△ 21	△ 15	△ 25	△ 15	0	25	0	△ 13	0	△ 15	△ 25	△ 18	△ 18
製造業	△ 14	△ 12	△ 27	△ 50	△ 47	△ 27	△ 16	△ 20	7	△ 30	△ 9	△ 13	△ 6
卸売・小売業	△ 37	△ 33	△ 81	△ 61	△ 81	△ 74	△ 62	△ 29	6	△ 33	△ 33	△ 40	△ 15
運輸業	△ 33	△ 11	△ 30	△ 44	△ 54	△ 50	△ 56	△ 40	0	△ 30	△ 27	△ 38	△ 13
サービス業	△ 27	△ 30	△ 28	△ 80	△ 80	△ 45	△ 60	△ 50	△ 25	△ 38	△ 33	△ 38	5

### 4 各種経済指標



(右軸: 来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差): %)